



## MultiView II XRTx Transmitter



マルチビュー II XRTx 送信機  
型番 : MVII XRTx  
取扱説明書

## ■安全上の注意

この度は tvONE 製品をお買いあげいただき、ありがとうございます。機器のセッティングを行う前に、この取扱説明書を十分にお読みください。この説明書には取り扱い上の注意や、購入された製品を最適にお使いいただくための手順が記載されています。長くご愛用いただくため、製品のパッケージと取扱説明書を保存してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



**警告** この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・ 必ず付属の電源アダプター、電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。また、付属の電源アダプター、電源ケーブルを他の製品で使用しないでください。
- ・ AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- ・ 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- ・ 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- ・ 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源ケーブル・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



**注意** この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- ・ 万一、落としたり破損が生じた場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- ・ 以下のような場所には設置しないでください。  
直射日光の当たる場所 / 極度の低温または高温の場所 / 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所 / 風通しの悪い場所
- ・ 配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ・ ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ・ 廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

## ■目次

■安全上の注意.....	2	【4】インストール.....	8
■目次.....	2	4.1 前提条件.....	8
【1】本書について.....	2	4.2 インストール手順.....	8
【2】製品の概要.....	3	4.3 コンフィギュレーション.....	9
2.1 フロントパネル.....	3	4.4 同期の設定.....	10
2.2 リアパネル.....	3	4.5 補助信号動作モードの設定.....	10
【3】仕様.....	4	4.6 ビデオカップリングの設定.....	11
3.1 一般的な仕様.....	4	4.7 ビデオの終端設定.....	11
3.2 VGAインターフェースの仕様.....	5	【5】トラブルシューティング.....	12
3.3 DDCサポート.....	5	付録A コネクターのピン配列.....	13
3.4 補助信号のサポート.....	5	付録B オプションモジュールの設定:XRTx-232.....	14
3.5 CAT-5ケーブルの互換性.....	7	付録C オプションモジュールの設定:XRTx-SAP.....	15
		付録D マウンティングキット.....	18

## 【1】本書について

この取扱説明書では、Magenta MultiView™ II XRTx 送信機（以下「XRTx」と略称）について説明しています。

Magenta MultiView II 製品は HD ビデオ規格に対応しています。さらに、ほぼすべてのユーザー設定オプションは、ジャンパーを使用せずに本体フロントパネルから設定することができます。

以下の表では、XRTxの工場出荷時の設定を示します。

バージョン	概要
MVII-XRTx-A	L+R のサミング・オーディオをサポートしています。 ※サミングオーディオ：L + R モノラル音声
MVII-XRTx-S	片方向シリアル通信（ユーザー構成設定）をサポートしています。
MVII-XRTx-232	9 線式 RS-233 のシリアル通信（ハードウェアハンドシェイクによる片方向または双方向の送受信）をサポートしています。(SA) のオプションモジュールを含みます。
MVII-XRTx-SAP	3 線式の RS-232 シリアル（片方向または双方向）とステレオオーディオをサポートしています。シリアル機能はポーリング可能です。デジチーチェーン接続されたリンク上の複数の受信機は表示制御またはステータスごとに個別に対処することができます。(SAP) のオプションモジュールが含まれています。

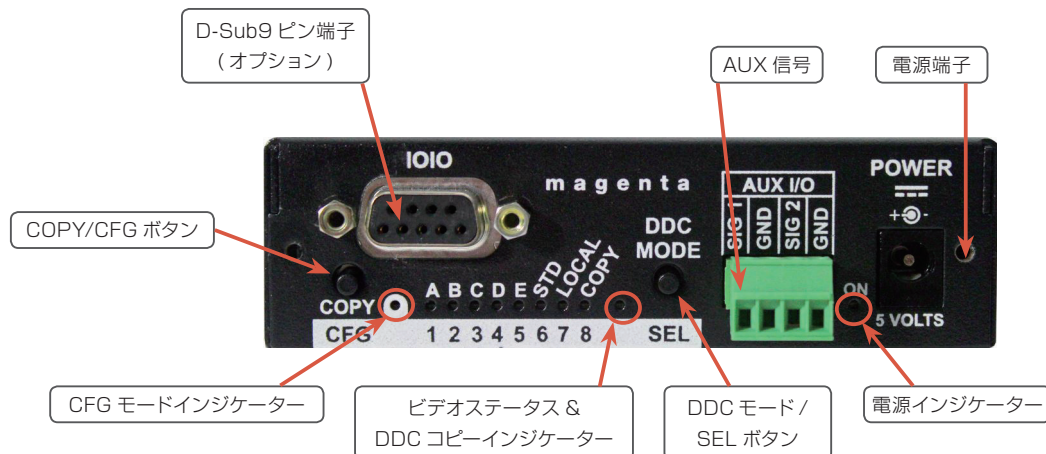


本製品は、イーサネットでネットワークへ接続や分配することを目的としたものではありません。ネットワーク製品や遠隔通信機器には絶対に接続しないでください。

## 【2】製品の概要

XRTxは、Magenta MultiView 製品と互換性を持つビデオ送信機です。標準的な CAT-5 ケーブル（または CAT-5e および CAT-6）を介してアナログビデオ信号を延長します。映像や音声、シリアルオプションはユーザー設定が可能で、フロントパネルから操作することができます。適合する受信機と組み合わせることで、UTP ケーブルを使用して解像度 1920 × 1200 を最大 609m(2000ft) 延長することができます。

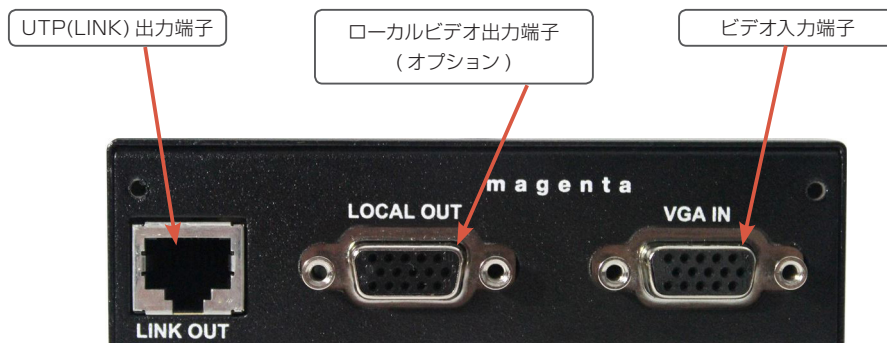
### 【2.1】フロントパネル



フロントパネルには COPY/CFG ボタンと DDC MODE/SEL ボタン、そして LED ステータスインジケータがいくつかあります。いずれも送信機の動作モードの表示や制御に使用され、各 LED インジケータは複数の機能を有します。

通常モードでは、CFG インジケータはオフです。設定モード時は CFG インジケータは点灯または点滅します。

### 【2.2】リアパネル



## 【3】仕様

### 【3.1】一般的な仕様

項目	概要
ケーブル	CAT-5、CAT-5e、CAT-6。シールドまたはシールドなしのツイストペアケーブル。低スキューが好ましい。
コンプライアンス	CE, FCC Class A, IC Class/Class A, I.T.E Device, RoHS.
ビデオサポート	VGA(RGB + HV)。オプションのメディアブレイクアウトケーブルを使用することで、コンポーネント (YPbPr) およびコンポジットビデオフォーマットに対応します。
解像度とリフレッシュレート	DDC サポートの項を参照してください。
インターフェース信号の詳細	<p><b>ビデオ入力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準 VGA インターフェースが適用。DDC サポート。</li> </ul> <p><b>標準的な AUX 信号 (-A および -S バージョン含む)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>L+R のサミング・オーディオ入力インピーダンス: 47k Ω、出力インピーダンス 600 Ω のソース機器を推奨 (アナログオーディオ入力モード時)</li> <li>RS-232 入力 (片方向通信) インピーダンス: 4.75k Ω (RS-232 モード時)</li> <li>S/PDIF 入力インピーダンス: 75 Ω (S/PDIF 入力モード時)</li> </ul> <p><b>デュプレックス 232 オプションモジュール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオ: サポートされていません。</li> <li>入力インピーダンス: 4.75k Ω</li> </ul> <p><b>デュプレックス (SA) または (SAP) オプションモジュール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステレオ L/R オーディオ入力: インピーダンス 10k Ω、出力インピーダンス 600 Ω 以下のソース機器を推奨</li> <li>RS-232 入力インピーダンス: 4.75k Ω</li> </ul>
ローカル出力ポート	ビデオ入力コンポーネント (YPbPr) またはコンポジットの場合でも、ローカル出力はビデオ入力のスルー出力です。DDC はサポートされません。詳しくは 9 ページ「DDC 設定」を参照してください。
オーディオ特性	<p><b>標準 (A) バージョン:</b> L+R サミング・オーディオ</p> <p><b>(232) バージョン:</b> このオプションモジュールはオーディオをサポートしません。</p> <p><b>(SA) &amp; (SAP) バージョン:</b> L/R のステレオオーディオ</p>
シリアル通信特性	<p><b>標準 (S) バージョン:</b> 最大 115.2k ボーの片方向通信。フォーマットとプロトコルは透過。</p> <p><b>デュプレックス (232) バージョン:</b> 最大 115.2k ボー (アプリケーションに依存)。フォーマットとプロトコルは透過。詳細については 14 ページ「付録 B」を参照してください。</p> <p><b>デュプレックス (SA) バージョン:</b> 9600 ボー固定。フォーマットとプロトコルは透過。</p> <p><b>デュプレックス (SAP) バージョン:</b> 1200 ~ 115.2k ボーまで 9 段階で調整可能。フォーマットは 8 データ/パリティなしに固定され、プロトコルに対しては透過。</p>
端子	<p><b>標準端子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ入出力端子: VGA (メス) × 2</li> <li>MultiView II CAT-5 リンク出力端子: RJ-45 × 1</li> <li>AUX 入力端子: 4 ピンフェニックス × 1</li> <li>電源入力端子: 同軸 (外径 5.5mm、内径 2.5mm、長さ 11mm) × 1</li> </ul> <p><b>(232)(SA)(SAP) バージョン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル入出力端子: D-Sub9 ピン (メス) × 1</li> </ul>
温度許容範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用温度: 0 ~ + 40°C</li> <li>保管温度: - 20 ~ + 60°C</li> </ul>
湿度許容範囲	最大 80% (結露なきこと)
外装	スチール製、パウダーコート黒仕上げ。
電源	<p>入力電源: +5VDC、最大 1.2A</p> <p>消費電力: 最大 6W</p>
寸法・質量	W104 × H31 × D109mm (※突起部除く)、約 450g
MTBF	100,000 時間

### [3.2] VGA インターフェースの仕様

以下の表は、VGA インターフェース (ビデオ入力端子とローカルビデオ出力端子) の仕様を示します。

項目	概要
ビデオサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ入力仕様 (ビデオ入力ポート) <ul style="list-style-type: none"> <li>最大対応解像度: 1080p または 1920 × 1200</li> <li>最大リフレッシュレート: 60Hz@1920 × 1200</li> </ul> </li> <li>ビデオ出力仕様 (ローカル出力ポート) <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルポートからは基本的にビデオ入力信号を出力</li> </ul> </li> </ul>
ビデオ端子	VGA 入力端子× 1、VGA 出力端子× 1
DDC	このモジュールは、VGA 端子の DDC 接続に対応。

### [3.3] DDC サポート

PC などのソース機器や拡張デバイス (この場合 XRTx) との接続を確実にするために解像度およびタイミング情報を含む適切な DDC プロファイルを提供する必要があります。これにより、接続されているディスプレイデバイスとの最適な接続を確実にすることができます。

XRTx はシンプルかつ非常に柔軟な DDC 管理方式に対応します。

- 工場出荷時の DDC プロファイルは標準的な解像度と多くのディスプレイと互換性のあるタイミング情報を数多くサポートしています。
- 工場出荷時にない特定の DDC プロファイルは、特定のディスプレイからコピーし、XRTx の非揮発性メモリ内に格納します。この方法は、単に工場出荷時のデフォルト DDC プロファイルでは正常に動作しない特定のディスプレイとの接続を可能にします。
- XRTx は、ローカル出力に接続されたディスプレイの DDC プロファイルがビデオソースへ直接送られる「パススルーモード」をサポートしています。これは特定の解像度やタイミング関連のディスプレイ問題を診断するのに非常に有効となります。

項目	概要
DDC パラメーター	XRTx 送信機を使用する場合、ソースに表示
メーカー名の文字列	MRI
モニター名の文字列	MagicDisplay
確立されたタイミング	640x480@60Hz、800x600@60Hz、1024x768@60Hz、1280x1024@60Hz、1360x768@60Hz 1600x1200@60Hz、1680x1050@60Hz、1920x1080@60Hz、1920x1200@60Hz
詳細なタイミング	1920 × 1080@60Hz
CEA ビデオフォーマット	720x480p@(59.94,60Hz)@4:3、720x576p@50Hz@4:3、1280x720p@50Hz@16:9 1280x720p@(59.94,60Hz)@16:9、1920x1080p@50Hz@16:9、1920x1080p@(59.94,60Hz)@16:9
特定のタイミング	1280x720@60Hz、720x480@59.94Hz、1920x1200@59.94Hz

### [3.4] 補助信号のサポート

XRTx は、工場出荷時設定された 3 モデルとふたつのユーザー設定可能なユニットを利用できます。そして CAT-5 ケーブルを介して異なる種類の信号を伝送することができます。これらはフロントパネルの設定またはオプションのモジュールを内蔵することで構成します。以下の表では XRTx の異なるバージョンについて紹介します。

#### XRTxバージョン一覧

バージョン	概要
MVII-XRTx-A	・ L+R のサミング・オーディオ (ユーザー設定) をサポート
MVII-XRTx-S	・ シンプレックス・モード (ユーザー設定) で 2 線式の RS-232 シリアルをサポート
MVII-XRTx-232	・ 9 線の RS-232 シリアル通信 (片方向または双方向) ・ (232) オプションモジュールを含む
MVII-XRTx-SA	・ 3 線の RS-232 シリアル通信 (片方向または双方向)、およびステレオオーディオをサポート ・ (SA) のオプションモジュールを含む
MVII-XRTx-SAP	・ 3 線の RS-232 シリアル通信 (片方向または双方向)、およびステレオオーディオをサポート ・ デイジーチェーン接続されたリンク上の複数の受信機のシリアル機能は、ディスプレイ制御またはステータスクエリーごとに個別に対処できるよう、ポーリング可能 ・ (SAP) オプションモジュールを含む

※ (A) または (S) バージョンはユーザー構成設定により S/PDIF デジタルオーディオをサポートします。

オプションモジュール(232/SA/SAP)は工場出荷時にインストールされるオプションです。(232)、(SA) または (SAP) バージョンへのフィールドアップグレードは可能ですが、モジュールのインストールが必要です。詳しくはお問い合わせください。

各 XRTx バージョンは、受信機 (MV500、AK600、AK1200、XR2000 など) を同様の構成にする必要があります。

### [3.4.1] 補助信号のサポート：(A)、(S) バージョン

オプションモジュールのない XRTx モデルは、補助的な機能をひとつだけユーザー設定することができます。

#### XRTx-A と XRTx-S の特長

項目	概要
(A) バージョン	アナログ L+R サミング・オーディオ
(S) バージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>RS-232 をサポート (片方向)</li> <li>デジタイズチェーン接続された受信機に片方向 (Tx のみ) シリアルデータを提供</li> <li>データは接続されたすべての受信機に送信されますが、データの受信は不可</li> <li>受信機の個別アドレス設定は不可</li> <li>RS-232 インターフェースは 2 線式のインターフェースをサポート (TX/GND)</li> <li>ボーレートは 115.2k までサポート、設定不要</li> <li>フォーマットとプロトコルは透過</li> </ul>

※ (A) と (S) いずれもユーザー構成の設定でデジタル S/PDIF オーディオに対応します。

### [3.4.2] 補助信号のサポート：(232) バージョン

XRTx-232 は双方向 RS-232 通信のため (232) オプションモジュールを搭載しています。ハードウェアハンドシェイク信号のサポートを含みます。(232) モジュールのユーザー構成は、内部ジャンパーで設定できます (フロントパネルからは設定できません)。内部ジャンパーはアプリケーションに対して正しく設定することが必要です。詳しくは 14 ページ「付録 B」を参照してください。

#### XRTx-232 の特長

項目	概要
片方向または双方向 RS-232 のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとつの受信機またはデジタイズチェーン接続した複数の受信機に片方向のシリアルデータを提供</li> <li>ポイントツーポイントリンク (ひとつの送信機からひとつの受信機へ) の双方向シリアルデータを提供</li> <li>データは "ブロードキャストモード" を使用して送信</li> <li>受信機は個別のアドレス設定不可</li> <li>RS-232 インターフェースは 9 線式インターフェースをサポート: RXD/TXD/RTS/CTS/DTR/DSR/DCD/RI/GND。 ハンドシェイクモード (232) モジュールの構成により異なります。 ※詳しくは 14 ページ「付録 B」を参照してください。</li> <li>115,200 ボーレートをサポート。利用可能なボーレートは (232) モジュール構成によって異なります。詳しくは 14 ページ「付録 B」を参照してください。</li> </ul>
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>(232) モジュールがインストールされている場合、音声はサポートされていません。XRTx の AUX I/O 端子は無視されます。</li> </ul>

XRTx-232 送信機は、DA (たとえば MultiView9D 分配アンプ) またはビデオのスイッチを経由してルーティングされるアプリケーションでは、(232) モジュールは片方向シリアル (TX のみ) と送信方向のハンドシェイク信号 (RTS/DTR) を提供します。この構成では、すべての受信方向の信号 (RX/CTS/DSR/DCD/RI) は無視されます。

### [3.4.3] 補助信号のサポート：(SA) バージョン

XRTx-SA は (SA) のオプションモジュールを搭載しています。双方向の RS-232 シリアル (ハンドシェイク信号のハードウェアはありません) とステレオオーディオに対応します。(SA) のモジュール自体は任意のユーザー設定ができませんのでご注意ください。

#### XRTx-SA の特長

項目	概要
片方向または双方向 RS-232 のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントツーポイントの片方向または双方向シリアルデータを提供します。片方向のみデジタイズチェーンが可能です。</li> <li>データは "ブロードキャストモード" を使用して送信されます。</li> <li>受信機は個別にアドレス設定できません。</li> <li>RS-232 インターフェースは 3 線式インターフェースをサポート: TXD/RXD/GND</li> <li>ボーレートは 9600 に固定。</li> </ul>
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>L/R のステレオオーディオは、シリアルデータと同時にサポートされています。</li> </ul>

XRTx-SA 送信機が MultiView 9D のような DA (ディストリビューション・アンプ) やビデオスイッチ経由でルーティングされる場合やデジタイズチェーン受信機と一緒に使用される場合、(SA) モジュールは、片方向シリアル (TX のみ) とオーディオ信号を提供します。このモードでは、受信方向のシリアルデータ (RX) は無視されます。

### [3.4.4] 補助信号のサポート：(SAP) バージョン

XRTx-SAP は、双方向 RS-232 シリアル (ハンドシェイク信号のハードウェアはありません) とステレオオーディオを有効にする (SAP) のオプションモジュールを装備しています。(SAP) モジュール自体はユーザー設定が可能で、オンボードの DIP スイッチを使って変更することができます (フロントパネルのスイッチからは変更できません)。

#### XRTx-SAP の特長

機能	説明
片方向または双方向 RS-232 のサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デイジーチェーン接続時にも片方向または双方向のシリアルデータ通信が可能です。</li> <li>・ データはデフォルトで "ブロードキャストモード" を使用して送信されます。</li> <li>・ 必要に応じて、受信機は個別のアドレス設定が可能です。全ての受信機から同時に応答データを受信するため、ユニークにアドレスを設定しないと通信障害を引き起こす場合がありますのでご注意ください。ただし、ディスプレイ機器がアドレス指定方式に対応している場合は、SAP モジュールの初期設定であるブロードキャストモードで、ディスプレイ・コントロール・ソフトウェアによって処理されている表示アドレス指定が優先されます。</li> <li>・ RS-232 インターフェースは 3 線式インターフェースをサポートします：TX/RX/GND</li> <li>・ ボーレートは 1200 ~ 115K ボーの間で 9 段階で調整できます。出荷時のデフォルト設定は 9600 ボーです。</li> </ul> <p>※ SAP の送信 / 受信モジュールは SAP アドレスが正確に設定されている必要があります。すべてのモジュールの出荷時の設定は 0 です。これが "ブロードキャスト" アドレスです。</p> <p>※すべての SAP アドレス設定は、必ずケーブル接続や電源を入れる前に行ってください。</p>
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ L/R のステレオオーディオは、シリアルデータと同時にサポートされています。オーディオのゲイン / ミュート設定はシリアル制御されます。</li> </ul>

(SAP) モジュールはこの他にもシリアルポートを介して多くのユーザー設定が可能です。詳細については SAP-II プログラマーズガイドを参照してください。

XRTx-SAP 送信機が MultiView 9D のような DA (ディストリビューション・アンプ) やビデオスイッチ (Mondo SAP 以外) 経由でルーティングされる場合、(SAP) モジュールは、片方向シリアル (TX のみ) とオーディオ信号を提供します。このモードでは、受信方向のシリアルデータ (RX) は無視されます。

### [3.5] CAT-5 ケーブルの互換性

MultiView および Multiview II 製品は、一般的な CAT-5 ケーブルを介して高品質でビデオ信号を延長することができます。一部のアプリケーションでは、システム設計や環境的な要因から CAT-5e や CAT-6 ケーブルが必要になる場合があります。アプリケーションごとに特別な要件があり、どのケーブルが最も適しているかの判断はシステム設計者に任されています。いずれのケースにおいても、特定のケーブルタイプに関して疑いがあるような場合には、仕様を確定したり設置する前に、適切な長さのケーブルを使用して実際にテストすることをお勧めします。

XRTx 送信機は、複数の受信機と CAT-5 ケーブルを使用したデイジーチェーン接続に対応しています。ひとつのビデオソースを、信号の減衰を最小限に抑えながら複数のディスプレイへ同時に送出することができます。

Magenta Research 製品は、主にビデオアプリケーションのために製造された特殊な低スキューケーブルだけでなく一般的な CAT-5/5e/6 データケーブルにも対応しています。低スキューケーブルは、ある特定のベンダーやアプリケーション固有のものもあり、Multiview/Multiview II 製品と互換性がない場合がありますのでご注意ください。低スキューの CAT-5 ケーブルを購入 / インストールする前に、一般的な標準品であることを確認してください。

一般的な CAT-6 ケーブルは、製法により、オプションのスキュー補正モジュールが必要になる場合があります。CAT-6 ケーブルの中には一般的な CAT-6 ケーブルに比べてゆがみが大きいものもあり、スキュー補正が必要なこともあります。詳しくはお問い合わせください。

CAT-5/5e/6 ケーブルは、NEC (National Electric Code) 規格の Type CMP, CMR, CMG または CM に対応するものを使用してください。ケーブルは、NEC 規格や使用環境の条件に従って導入してください。

## [4] インストール

Magenta Multiview II シリーズで使用する CAT-5/5e/6 ケーブルは、結線規格 TIA-EIA T568B に準拠してください。

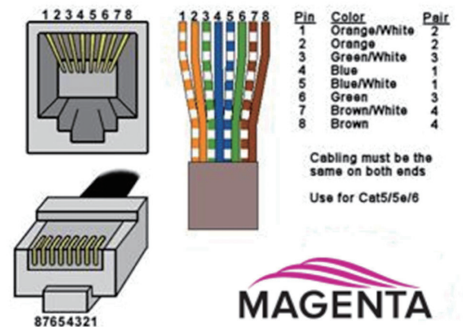
またすべての CAT-5 ケーブルは終端されたあとにテストすることをお勧めします。現場または既存施設において終端されるケーブルは、TIA-EIA T568B 仕様を順守するため、事前にテストする必要があります。正しく終端されていないケーブルを使用すると製品の故障の原因となりますのでご注意ください。



本製品は、イーサネット・ネットワークを介した分配には対応していません。

### [4.1] 前提条件

インストールの際に、ドライバーやナットドライバーやネジが必要になる場合がありますが、製品には付属していません。また前述のとおり、MultiView と MultiView II の受信機およびほかの MultiView および MultiView II デバイスに本機を接続するには CAT-5 ケーブルが必要です。



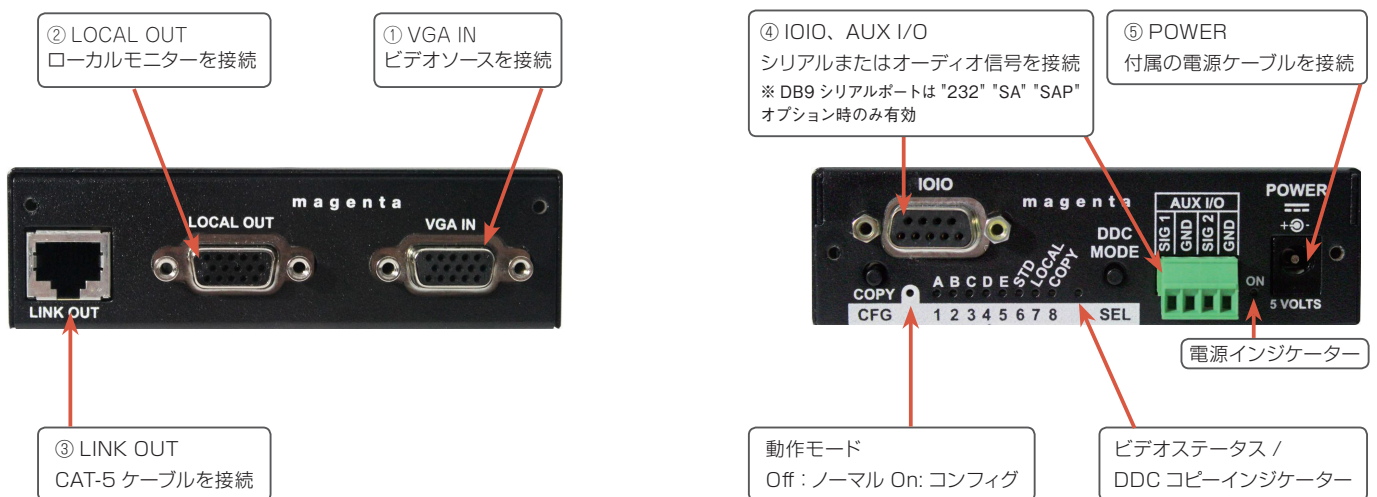
### [4.2] インストール手順

すべての製品が正しく機能するためにはすべての補助機能が同じである必要があります。例えば、XRTx-232 送信機が正常に機能するためには、シリアルインターフェイス用の MultiView II-232 タイプ受信機と接続します。バージョンの異なる XRTx と MultiView 受信機を混在させることはできません。ビデオモードは正常に動作する可能性がありますが、4 つのオプションは動作しません。

接続前にはコネクタ部に異物がないことを確認してください。ケーブルが外れるようなトラブルを防ぐために、コネクタを固定するためのネジやラッチを使用することをお勧めします。

#### 送信機側の XRTx のインストール手順：

- ①送信機のビデオ入力ポート (VGA IN と書かれた VGA 端子) にビデオソースを接続します。
- ②必要に応じて LOCAL OUT と書かれた VGA 端子にローカルモニターを接続します。
- ③送信機の LINK OUT ポートに CAT-5 ケーブルを接続します。
- ④XRTx 送信機のモデルに応じてフェニックス AUX I/O 端子または D-Sub9 ピン [IOIO] シリアル端子を介して音声またはシリアル接続を行います。
- ⑤POWER と書かれた電源端子に電源ケーブル (DC+5V@ 最大 3A) を接続します。
- ⑥送信機の電源を ON にします。
  - a) パワーオン LED がオンになります。その他の LED はパワーアップテストシーケンスを実行する必要があります。
  - b) 適切なビデオ信号が入力されているとビデオステータスを表示する LED が点灯します。
  - c) ローカルモニターを接続している場合は、ビデオ映像がモニターに表示されます。
- ⑦LED/ ボタンのユーザーインターフェイスを介して、必要に応じて設定を変更してください。



#### 受信機側のインストール手順

以下は一般的な方法です。詳細は各受信機の取扱説明書を参照してください。

- ①VIDEO OUTPUT 端子をディスプレイに接続します。MultiView II 受信機やオプションのモジュールに応じて、オーディオ (AUX I/O) やシリアル (IOIO) を接続してください。
- ②LINK IN 端子に CAT-5 ケーブルを接続します。複数の受信機をデジチェーン接続している場合は、順番に CAT-5 ケーブルを LINK OUT ポートに接続してください。
- ③受信機の電源を ON にします。
  - a) 電源インジケータが緑色に点灯します。
  - b) ステータスインジケータが緑色に点灯します。
- ④受信機にある LED/ ボタンのユーザーインターフェイスを介して必要な設定を実行します。
- ⑤受信機の EQ やスキュー (オプション) 設定を調整します。この調整をしない場合、ディスプレイの映像品質に悪影響を及ぼす場合があります。



### [4.3] 構成

このセクションでは以下の設定について説明します。

- ・ ユーザー設定
- ・ DDC 設定

#### [4.3.1] ユーザー構成可能な設定

XRTx にはユーザー設定可能な動作パラメーターがいくつかあり、工場出荷時の設定ではほとんどのアプリケーションで動作します。ただし、一部のアプリケーションでは、コンフィギュレーション(構成)の変更が必要になります。ほぼすべての設定はフロントパネルの LED/ ボタンから設定できます。オプションモジュールをインストールするか取り外さない限り、またオプションモジュールに固有の設定を変更しなければならない場合を除き本体を開ける必要はありません。

DDC モードはノーマルモード (CFG のインジケータは消灯) で選択します。

- ・ DDC 動作モードは **DDC MODE** ボタンを押して変更します。

他のすべての設定は、XRTx 本体を CONFIG モード (CFG インジケータは点灯) で行います。一度 CONFIG モードに設定するとすべての変更は即座に反映され、不揮発性のメモリーに保存されます。

#### コンフィグモード 1

- ・ **CFG** ボタンを一回押します。**CFG** インジケータが点灯します。コンフィグモード 1 であることを確認してください。このモードでは、LED インジケータ 1 ~ 8 は現在の設定が表示されます。

#### コンフィグモード 2

- ・ **CFG** ボタンを二回押します。**CFG** インジケータが点滅します。コンフィグモード 2 であることを確認してください。このモードでは、LED インジケータ 1 ~ 8 は現在の設定が表示されます。

#### コンフィグモードを終了する

- ・ **CFG** ボタンを 10 秒間何もせずにおくと **CFG** インジケータが消灯し、ノーマルモードに戻ります。

#### 工場出荷時の初期設定にリセットする

- 1)電源コードを外す。
- 2)CFG ボタンを長押しする。
- 3)電源コードを接続する。すべての LED インジケータが三回点滅し、全ての設定がリセットされます。
- 4)CFG ボタンから手を離します。

#### [4.3.2] DDC 設定

これらの設定はノーマルモード時 (CFG インジケータは消灯) にアクセスできます。

MultiView II XRTx はディスプレイ能力を判断するために DDC 表示識別子をビデオソースに送信する機能を備えています。DDC インターフェースは、プラグアンドプレイ機器の間で解像度やメーカーを特定するために使用されるデータ通信チャンネルです。このデータが利用できない場合、ビデオソースは低解像度で出力されるか全く表示されない場合があります。

XRTx には 3 種類の DDC 動作モードがあります。XRTx がノーマルモードで動作しているとき (CFG インジケータ：消灯)、DDC MODE ボタンを使用して DDC 動作モードを選択することができます。

#### DDC モード

モード	選択	説明	起動
STD	マゼンタマジック DDC プロファイル	送信機内に搭載されている汎用の DDC 情報を使用した工場出荷時の初期設定です。マゼンタ・マジック・プロファイルとも呼ばれ、標準またはワイドスクリーンフォーマットで使用される VESA 規格をサポートするために一般的な解像度で構成されています。	STD インジケータ (LED6) が点灯するまで DDC MODE ボタンを押します。
LOCAL	ローカルに接続されたディスプレイからの DDC プロファイル	DDC 情報は、ビデオソースに戻す送信機のローカルポートに接続されたディスプレイから転送されます。このモードは LOCAL OUT ポートにディスプレイを接続している時のみ有効のため、常時接続しておいてください。このモードでは XRTx 機器内部に DDC プロファイル情報は保存されません。	LOCAL インジケータ (LED7) が点灯するまで DDC MODE ボタンを押します。
COPY	過去に保存した DDC プロファイルのコピー	このモードでは、以前ディスプレイデバイスからの XRTx の不揮発性メモリーにコピーされた DDC プロファイルから DDC 情報入手します。このモードを使用するには、DDC プロファイルがあらかじめ XRTx 内に保存されている必要があります。	COPY インジケータ (LED8) が点灯するまで DDC MODE ボタンを押します。

#### DDC コピーの実行方法：

- ① COPY インジケータ (LED8) が点灯するまで **DDC MODE** ボタンを押し、COPY モードを起動します。
- ② LOCAL OUT ポートにディスプレイを接続し、ディスプレイの電源をオンにします。
- ③ コピーステータスインジケータが 3 回点滅するまで **COPY** ボタンを押し続けます。1 回だけの点滅の場合は操作の失敗です。以前保存した DDC プロファイルが変更されずに残ります。

#### [4.4] 同期の設定

XRTx は、適切な同期モード (RepliSync-I ノーマル / ストレッチ) を自動検出するようデフォルトで設定されています。このモードでは、RepliSync をサポートするすべての MultiView と MultiView II 受信機初期設定を使用している場合のみ) と互換性があります。ただしいくつかのビデオソースは、カスタム同期モード設定 (特に 1920 × 1200 のビデオ解像度) が必要になる場合があります。この場合には、他の同期モードを選択できます。

接続された MultiView または MultiView II 受信機は、一般的に同じ同期モードに設定する必要があり、同期極性などほかの調整を必要とする場合があります。適切に設定されない場合は、ビデオ信号の受信が正しく動作しない場合があります。

送信機がノーマル動作モード (CFG インジケータ：消灯) の場合、以下の手順で設定します。

- ① **CFG** ボタンを一回押して、コンフィグモード (**CFG** インジケータ：点灯) にアクセスします。
- ② **SEL** ボタンを一回押すと同期設定を変更できます。
- ③ LED インジケータ 1 ~ 3 が点灯 (DIM\* または ON) します。インジケータ 4 ~ 8 は消灯しています。 \*DIM: 暗い点灯
- ④ 繰り返し **CFG** ボタンを押して、希望の同期モードの設定を選択します (下記表参照)。
- ⑤ ボタンを触らずに 10 秒経過するとすべての設定が保存されます。

##### 同期モードの設定

LED1	LED2	LED3	フロントパネルの表示	同期モードの設定
dim	dim	dim		・ XRTx は必要な RepliSync-I モードを自動検出 ("ノーマル" または "ストレッチ") します。 <b>工場出荷時の初期設定</b> です。
dim	dim	ON		・ RepliSync-I を強制的に通常の水平同期パルスにエンコードします。
dim	ON	dim		・ RepliSync-I を強制的に伸張した水平同期パルスにエンコードします。
dim	ON	ON		・ RepliSync-II を強制します。
ON	dim	dim		・ 固定同期モードを強制します。 ※接続している MultiView または MultiView II 受信機は、固定同期モードで H/V 極性を受信機で選択する必要があります。

※ RepliSync-II は、1080p や 1920 × 1200 など高精細フォーマットとの互換性があります。RepliSync-II モードを有効にするには、接続しているすべての受信機を RepliSync-II モードに設定する必要があります。RepliSync-II モードは MultiView II 受信機でのみ有効です。

#### [4.5] 補助信号動作モードの設定





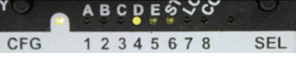
XRTx は映像以外に補助信号を伝送するオプションがいくつか用意されています。接続しているすべての送信機と受信機は、同じ動作モードに設定する必要があります。

オプションの拡張ボードがインストールされている場合 (232、SA、SAP のオプション)、補助信号動作モードの設定はインストールされた拡張ボードによって定義されます。この場合、下記のような設定を変更することはできません。

送信機がノーマルモードの場合 (CFG インジケータが消灯)

- ① **CFG** ボタンを 1 回押して設定モードにアクセスします (CFG インジケータは点灯)
- ② **SEL** ボタンを 2 回押すと、補助信号動作モードの設定を変更することができます。
- ③ LED インジケータ 4 ~ 6 が点灯し (DIM または ON)、他のインジケータ (1 ~ 3、7、8) は消灯します。
- ④ 繰り返し **CFG** ボタンを押して、希望の補助信号動作モードの設定を選択します (下記表参照)。
- ⑤ ボタンを触らずに 10 秒経過するとすべての設定が保存されます。

##### 補助信号動作モードの設定

LED4	LED5	LED6	フロントパネルの表示	同期モードの設定
dim	dim	dim		・ 動作モードはオプションモジュールによって定義されます。オプションモジュールは本体に内蔵されるため、設定の変更はできません (232、SA、SAP)。 ※オプションモジュールが内蔵されていない場合、この設定では補助信号はミュートされます。
dim	dim	ON		・ パススルーモード (カスタムアプリケーション)
dim	ON	dim		・ 外部アナログオーディオ (LR サミング)。この設定は、オプションの拡張ボードがインストールされていない場合の <b>工場出荷時の初期設定</b> です。
dim	ON	ON		・ 外部 S/PDIF デジタルオーディオ ・ 入力インピーダンス: 75 Ω
ON	dim	dim		・ 片方向シリアル

#### [4.6] ビデオカップリングの設定

XRTx のビデオ入力は AC カップリング (DC 復元機能の有無に関わらず)、DC カップリング、自動検出に設定できます。

##### 送信機がノーマルモードの場合 (CFG インジケータが点灯)

- ① CFG ボタンを 2 回押してコンフィグモード 2 にアクセスします (CFG インジケータは点灯)
- ② SEL ボタンを 1 回押して、ビデオカップリング設定を変更します。
- ③ LED インジケータ 1 ~ 2 が点灯 (DIM または ON) します。他のすべてのインジケータ (3 ~ 8) は消灯します。
- ④ CFG ボタンを繰り返し押して、ビデオカップリング設定を選択します。
- ⑤ ボタンを押してすべてのオプション設定項目を終わらせるか、ボタンを押さずに 10 秒間経過するとコンフィグモードが終了されます。

##### ビデオカップリング設定

LED1	LED2	フロントパネルの表示	同期モードの設定
dim	dim		・ 入力信号に基づく AC/DC カップリングモードを自動検出します。この設定は <b>工場出荷時の初期設定</b> です。
dim	ON		・ ビデオ入力が DC カップリング。
ON	dim		・ ビデオ入力が AC カップリング、DC 復元機能なし。
ON	ON		・ ビデオ入力は AC カップリング、DC 復元機能あり。


#### [4.7] ビデオの終端設定

ビデオ入力の終端は 75 Ω またはハイインピーダンス (Hi-Z) に設定できます。

##### 送信機がノーマルモードの場合 (CFG インジケータが消灯)

- ① CFG ボタンを 2 回押してコンフィグモード 2 にアクセスします (CFG インジケータは点灯)
- ② SEL ボタンを 1 回押して、ビデオの終端設定を変更します。
- ③ LED インジケータ 3 が点灯 (DIM または ON) します。他のすべてのインジケータ (1、2、4 ~ 8) は消灯します。
- ④ CFG ボタンを繰り返し押して、ビデオ終端設定の ON/OFF を切り替えます。
- ⑤ ボタンを押してすべてのオプション設定項目を終わらせるか、ボタンを押さずに 10 秒間経過するとコンフィグモードが終了されます。

##### ビデオ終端設定

LED3	フロントパネルの表示	同期モードの設定
dim		・ ビデオ入力インピーダンスはハイインピーダンス (Hi-Z)
dim		・ ビデオ入力インピーダンスは 75 Ω。この設定が <b>工場出荷時の初期設定</b> です。

## [5] トラブルシューティング

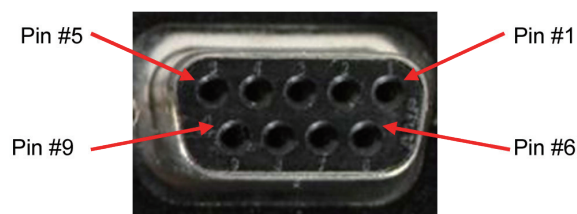
MVII-XRTx を使用しているシステムで発生する問題多くは、ツイストペアケーブル (CAT-5/5e/6) の接続状態を確認する、もしくはツイストペアケーブルのコネクタ部分が TIA/EIA 568B 規格の配線仕様どおりになっているか確認することで解決できます。それでも不具合が解消されない場合、以下の解決方法を参照してください。

問題点	解決方法
受信機からビデオ信号が出力されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>送信機、受信機の電源が ON になっていることを確認する。</li> <li>画像が表示されるまで、EQ/SKEW 設定をゆっくり調整する。</li> <li>ツイストペアケーブル (CAT-5/5e/6) が TIA/EIA568B 規格のとおり正しく終端されているか確認する。</li> <li>ディスプレイの電源がオンで正常に動作しているか確認する。</li> <li>モニターの設定 (解像度、リフレッシュレートなど) が入力信号と一致しているか確認する。</li> <li>ビデオの終端が適切か確認する。送信機のデフォルトは 75 Ω です。設定を変更する場合は該当する取扱説明書を参照してください。</li> <li>DDC 互換に問題がある場合があります。DDC モードを変更するか DDC プロファイルをディスプレイから直接コピーしてください。</li> </ul>
受信機からのビデオ信号の画質低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像が正しく表示されるまで、EQ/SKEW 設定をゆっくり調整する。</li> <li>すべてのケーブル接続を確認する。</li> <li>ビデオ信号のリフレッシュレートが高すぎる場合があります。Windows PC などでもリフレッシュレートを低く設定してください。</li> <li>ビデオ信号にスキューが発生している場合があります。該当する受信機のスキューを調整してください。</li> <li>DDC 互換に問題がある場合があります。DDC モードを変更するか DDC プロファイルをディスプレイから直接コピーしてください。</li> </ul>
オーディオ品質の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信機のオーディオ出力はラインレベルですので、アンプやパワードスピーカーが必要です。アンプやパワードスピーカーの電源が ON であることを確認してください。</li> <li>ソースデバイスからのレベルを確認してください。オーディオソースのレベルが XRTx のオーディオ入力定格を超えるとクリッピングやひずみが生じる可能性があります。</li> <li>"A" バージョンのオーディオは LR サミングされています。ひとつのチャンネルを使用する場合は送信機にある両方のオーディオ入力、リンクから適切なオーディオゲインを得られるように接続する必要があります (入力から出力が 1:1)</li> <li>デジチェーン接続する場合は、DP 受信機 (AK600/1200DP) でオーディオ終端を外す必要があります。ただし最後の受信機は終端してください。これは SA または SAP ユニットには該当しません。詳しくは受信機の取扱説明書を参照してください。</li> </ul>
シリアル通信の動作不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリアルデバイスが正しく接続され、送信元 / 送信先のデバイスのシリアルパラメーターが正しく設定されているか確認してください。</li> <li>シリアルケーブルが正しく終端され、受信機にヌルモデルケーブルが必要か確認してください。</li> <li>ビデオスイッチや分配アンプ、マルチ出力送信機と組み合わせて RS-232 対応の受信機を使用する場合、シリアルデータは送信のみです。ディスプレイまたはほかのデバイスを制御する場合はこの点を考慮してください。</li> </ul>
デジチェーン接続時の注意事項	<p>受信機の RJ-45 デジチェーンポートを使用する場合は以下のルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LR サミングオーディオ、片方向シリアル通信、S/PDIF ユニットを使用する場合は、定格ケーブル長の範囲内で最大 12 台の受信機をデジチェーン接続できます。</li> <li>SA ユニットを使用する場合、定格ケーブル長の範囲内で最大 4 台の受信機をデジチェーン接続できます。</li> <li>SAP ユニットを使用する場合、標準的な CAT-5/6 ケーブルを定格範囲内で最大 12 台の受信機をデジチェーン接続できます。また低スキューケーブルを使用する場合は定格長以内で最大 8 台のデジチェーン接続が可能です。</li> <li>デジチェーン接続する場合、ケーブルの最大距離は使用する受信機の規定距離以上にはなりません。例えば AK600 は 600 フィート (183m) 以内のデジチェーン接続となります。600 フィート (183m) 以上延長したい場合は、AK1200 を使用することで最大 1200 フィート (366m) のデジチェーン接続が可能になります。</li> </ul>

## 付録 A コネクターのピン配列

### シリアルポート (IOIO) コネクターのピン配列 (232/SA/SAPのみ)

XRTxのシリアルポートコネクタは標準の9ピン "DCE" シリアルポートのように構成されます。したがって、ほとんどのアプリケーションでは XRTx 送信機に外部デバイス (たとえば PC) を接続するためにストレート・スルー・シリアルケーブルまたはアダプタープラグ (DB9 F-M) を使用します。

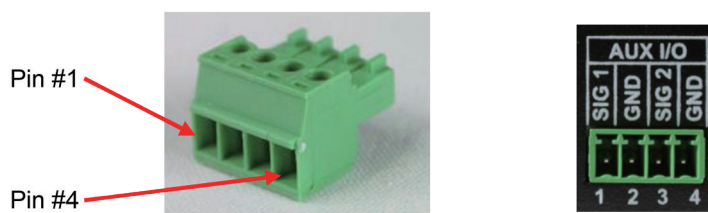


DB9-F シリアル・ピンアサイン

Pin#	XRT(232) 片方向	XRTx(232) 双方向	XRTx(SA) 片方向	XRTx(SA) 双方向	XRTx(SAP) 片方向	XRTx(SAP) 双方向
	4 線	9 線	2 線	3 線	2 線	3 線
1	—	DCD	—	—	—	—
2	—	RX	—	RX	—	RX
3	TX	TX	TX	TX	TX	TX
4	DTR	DTR	—	—	—	—
5	Ground	Ground	Ground	Ground	Ground	Ground
6	—	DSR	—	—	—	—
7	RTS	RTS	—	—	—	—
8	—	CTS	—	—	—	—
9	—	RI	—	—	—	—

※ DB9-F シリアルポートは XRTx-232/SA/SAP モデルのみ使用可能です。

### 補助 (AUX I/O) コネクターのピン配列



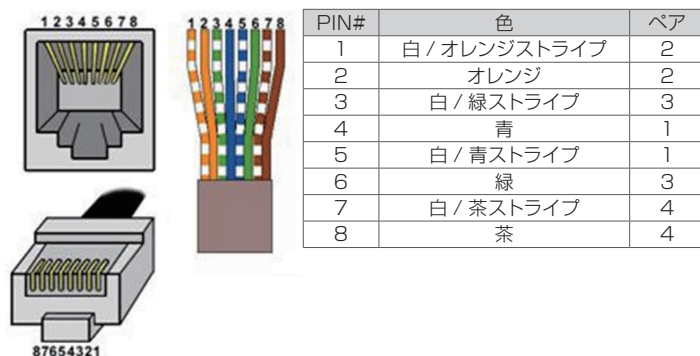
4 ピンフェニックス・ピンアサイン

Pin#	XRTx				XRTx-232	XRTx-SA	XRTx-SAP
	(A) オーディオ	(S) 片方向シリアル	S/PDIF オーディオ	コンポジットビデオ			
1(SIG1)	左チャンネル	Tx	Signal +	Signal +	—	左チャンネル	左チャンネル
2(GND)	Ground	Ground	Signal -	Signal -	—	Ground	Ground
3(SIG2)	右チャンネル	—	—	—	—	右チャンネル	右チャンネル
4(GND)	—	Shell	—	—	—	—	—

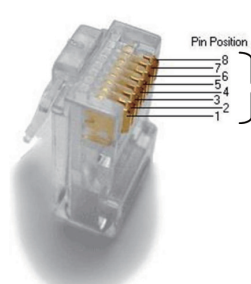
※ SA モデルのオーディオチャンネルは MultiView または MultiView II 受信機の側では逆になります。左のオーディオはピン 3、右のオーディオがピン 1 です。

### RJ-45 (MultiView Link 端子) の標準配線

T568B RJ-45 ピン配列



一般的な RJ-45 プラグ

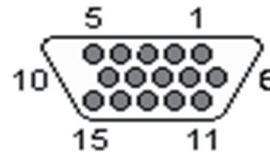


## VGA 入出力 (オプション) 端子のピン配列

XRTx の VGA 端子は標準的な HD-15 (メス、3 列、15 ピン) 端子を採用しています。

HD-15 コネクターピン配列

PIN#	RGBHV	RGBS	RGsB	Com-	SVHS	YUV
1	Red+	Red+	Red+		C+	V+
2	Green+	Green+	Green+	C+	Y+	Y+
3	Blue+	Blue+	Blue+			U+
4	-	-	-			
5	Gnd	Gnd	Gnd			
6	Red-	Red-	Red-		C-	V-
7	Green-	Green-	Green-	C-	Y-	Y-
8	Blue-	Blue-	Blue-			U-
9	-	-	-			
10	Gnd	Gnd	-			
11	Gnd	Gnd	-			
12	-	-	-			
13	H Sync	C Sync	-			
14	V Sync	-	-			
15	Gnd	Gnd	-			

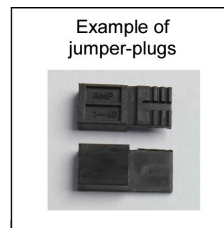


## 付録 B オプションモジュールの設定 : XRTx-232

(232) オプションモジュールは、内部ジャンパーの設定により、様々なシリアルモードや CAT-5 ケーブルの長さに対応できます。

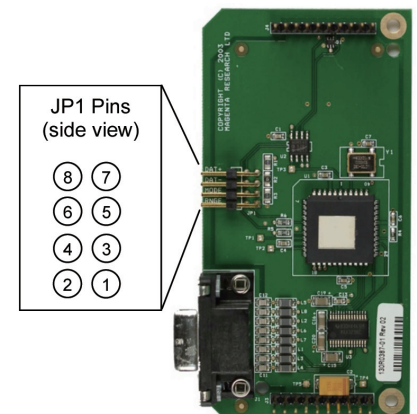
### (232) モジュールボードの取り外し方 :

- 1) 本体の電源をオフにします。
- 2) 必要に応じて、本体に接続しているケーブルを外します。
- 3) 上部カバーのネジを外します。
- 4) DB9F の六角スペーサーネジを外します。
- 5) カバーを持ち上げて取り除きます。
- 6) 慎重に (232) モジュールをメインボードから取り外します。



送信機 (232) モジュールのジャンパー設定

モード	タイプ	Baud (Max)	JP1 1-2	JP1 3-4
1	シングルレックス、1500 フィート (約 475m)	115k	OUT	IN
2	フル・デュプレックス、500 フィート (約 152m) 以下	19.2K	OUT	OUT
3/5 初期設定	フル・デュプレックス、1500 フィート (約 475m)	19.2K	IN	OUT
4	ハーフ・デュプレックス、1500 フィート (約 475m)	115K	IN	IN



送信機 (232) モジュールボード

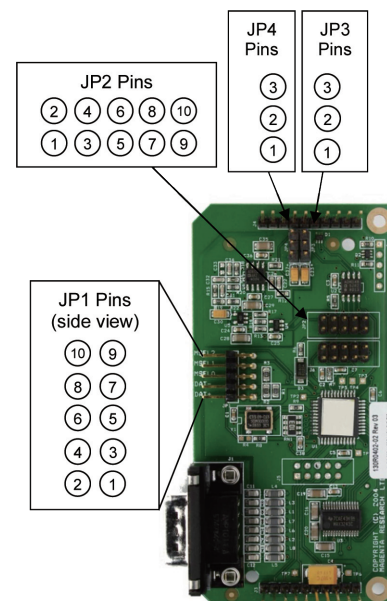
※マルチ出力の送信機を使い受信機をデジチェーンするときにモード 1 が必要になります。

※モード 3 で 1000 フィート (約 304m) 以上のシリアル通信を行う場合、映像にノイズが発生する場合があります。受信機がモード 5 の場合は除きます。

※送信機の入力上のシリアルバスは JP1 の 5-6 と 7-8 を終端する必要があります。

### 受信機 (232) モジュールのジャンパー設定

モード	タイプ	Baud (Max)	JP1 1-2	JP1 3-4
1	シンプレックス 1500 フィート (約 475m)	115k	1-2 ※下記注意参照 3-4 ※下記注意参照 5-6 IN 7-8 OUT 9-10 OUT	1-2 IN 3-4 OUT 5-6 OUT 7-8 OUT 9-10 IN
2	フル・デュプレックス 500 フィート (約 152m) 以下	19.2K	1-2 ※下記注意参照 3-4 ※下記注意参照 5-6 OUT 7-8 OUT 9-10 OUT	1-2 IN 3-4 OUT 5-6 OUT 7-8 IN 9-10 OUT
3	フル・デュプレックス 1000 フィート (約 304m)	19.2K	1-2 ※下記注意参照 3-4 ※下記注意参照 5-6 OUT 7-8 IN 9-10 OUT	1-2 IN 3-4 OUT 5-6 OUT 7-8 IN 9-10 OUT
4	ハーフ・デュプレックス 1500 フィート (約 475m)	115K	1-2 ※下記注意参照 3-4 ※下記注意参照 5-6 IN 7-8 IN 9-10 OUT	1-2 IN 3-4 OUT 5-6 OUT 7-8 IN 9-10 OUT
5	フル・デュプレックス 1500 フィート (約 475m)	19.2K	1-2 OUT 3-4 OUT 5-6 OUT 7-8 IN 9-10 OUT	1-2 OUT 3-4 IN 5-6 IN 7-8 OUT 9-10 IN



受信機 (232) モジュールボード

\*JP3 と JP4 はモード 5 を除くすべてのモデルで OUT です。モード 5 では JP3 と JP4 をピン 2-3 間でジャンパーする必要があります。

※マルチ出力の送信機を使い受信機をデジチェーンするときモード 1 が必要になります。

※モード 3 で 305 m 以上のシリアル通信を行う場合、映像にノイズが発生する場合があります。

※JP1 の 1-2 と 3-4 のシリアルバスを終端しデジチェーンで最後の受信機がモード 5 を使用する場合を除き、ポイントツーポイントリンクを使用する必要があります。

## 付録 C オプションモジュールの設置 : XRTx-SAP

SAP モジュールは、複数の受信機をデジチェーン接続している環境においても、SAP モジュールを装備した送信機 (XRTx-SAP) と特定の SAP 装備の受信機との間で双方向通信を可能にします。

XRTx-SAP などの SAP 搭載送信機にはアドレスを設定する DIP スイッチがありません。工場出荷時のデフォルトアドレス設定は「0」です。

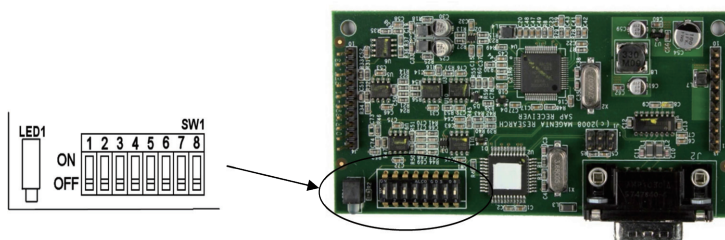
SAP 受信機 (例えば AK600-SAP) はアドレス用の DIP スイッチを装備しています。SAP 受信機は最初に DIP スイッチまたはシリアルコマンドの入力でアドレスを設定しておく必要があります。XRTx-SAP の送信先アドレスが「0」を使用するよう指示された場合、シリアルデータはすべての受信機に送信されます。これは工場出荷時のデフォルト設定です。SAP 受信機のアドレススイッチを設定するには、受信機の筐体を開いて SAP モジュールの DIP スイッチを直接設定する必要があります。DIP スイッチは 8 個のスイッチを備えており、アドレスビットの位置毎にひとつです。適切な SAP アドレスを指定するために次のページのチャートのスイッチアドレスを使用します。すべての受信機は、固有のアドレスを設定する必要があります。この手順が完了したら各受信機のアドレスを保管しておくことをお勧めします。また受信機の設置場所とアドレスとの相関するリストを作成し保管することもお勧めします。受信機とディスプレイがどこで通信を行うかを決定する時に必要となります。

### DIP スイッチによる SAP アドレス設定方法 (SAP 受信機使用) :

- 1) 受信機の上部カバーを取り外します。
- 2) 必要に応じて内部の拡張ボードアセンブリ上にある 8 ポジションの DIP スイッチを確認し、SAP アドレッシングチャートを使用して受信機のアドレスを設定します。
- 3) 上部カバーを戻しユニットを再設置します。

※シリアルコマンドによる SAP 受信機のアドレスを設定することも可能です。この場合、拡張ボードの DIP スイッチアドレスは「0」に設定されていることを確認してください。

※SAP 関連の設定と操作に関する情報については、SAP II プログラマーズガイドを参照してください。



### SAP アドレスチャート

ADDR	Switch Settings								
00									ON
	1	2	3	4	5	6	7	8	OFF
01	1								ON
		2	3	4	5	6	7	8	OFF
02		2							ON
	1		3	4	5	6	7	8	OFF
03	1	2							ON
			3	4	5	6	7	8	OFF
04		1	3						ON
	1	2		4	5	6	7	8	OFF
05	1		3						ON
		2		4	5	6	7	8	OFF
06		2	3						ON
	1			4	5	6	7	8	OFF
07	1	2	3						ON
				4	5	6	7	8	OFF
08				4					ON
	1	2	3		5	6	7	8	OFF
09	1			4					ON
		2	3		5	6	7	8	OFF
10		2		4					ON
	1		3		5	6	7	8	OFF
11	1	2		4					ON
			3		5	6	7	8	OFF
12			3	4					ON
	1	2			5	6	7	8	OFF
13	1		3	4					ON
		2			5	6	7	8	OFF
14		2	3	4					ON
	1				5	6	7	8	OFF
15	1	2	3	4					ON
					5	6	7	8	OFF
16					5				ON
	1	2	3	4		6	7	8	OFF
17	1				5				ON
		2	3	4		6	7	8	OFF
18		2			5				ON
	1		3	4		6	7	8	OFF
19	1	2			5				ON
			3	4		6	7	8	OFF
20		3			5				ON
	1	2		4		6	7	8	OFF
21	1		3		5				ON
		2			6	7	8		OFF
22		2	3		5				ON
	1			4		6	7	8	OFF
23	1	2	3		5				ON
				4		6	7	8	OFF
24				4	5				ON
	1	2	3			6	7	8	OFF
25	1			4	5				ON
		2	3			6	7	8	OFF
26		2	3	4	5				ON
	1					6	7	8	OFF
27	1	2		4	5				ON
			3			6	7	8	OFF
28			3	4	5				ON
	1	2				6	7	8	OFF
29	1		3	4	5				ON
		2				6	7	8	OFF
30		2	3	4	5				ON
	1					6	7	8	OFF
31	1	2	3	4	5				ON
						6	7	8	OFF

ADDR	Switch Settings								
32					6				ON
	1	2	3	4	5		7	8	OFF
33	1				6				ON
		2	3	4	5		7	8	OFF
34		2			6				ON
	1		3	4	5		7	8	OFF
35	1	2			6				ON
			3	4	5		7	8	OFF
36			3		6				ON
	1	2		4	5		7	8	OFF
37	1		3		6				ON
		2		4	5		7	8	OFF
38		2	3		6				ON
	1			4	5		7	8	OFF
39	1	2	3		6				ON
				4	5		7	8	OFF
40				4		6			ON
	1	2	3		5		7	8	OFF
41	1			4		6			ON
		2	3		5		7	8	OFF
42		2		4		6			ON
	1		3		5		7	8	OFF
43	1	2		4		6			ON
			3		5		7	8	OFF
44			3	4		6			ON
	1	2			5		7	8	OFF
45	1		3	4		6			ON
		2			5		7	8	OFF
46		2	3	4		6			ON
	1				5		7	8	OFF
47	1	2	3	4		6			ON
					5		7	8	OFF
48					5	6			ON
	1	2	3	4		7	8		OFF
49	1				5	6			ON
		2	3	4		7	8		OFF
50		2			5	6			ON
	1		3	4		7	8		OFF
51	1	2			5	6			ON
			3	4		7	8		OFF
52		3			5	6			ON
	1	2		4		7	8		OFF
53	1		3		5	6			ON
		2			6	7	8		OFF
54		2	3		5	6			ON
	1			4		7	8		OFF
55	1	2	3		5	6			ON
				4		7	8		OFF
56				4	5	6			ON
	1	2	3			7	8		OFF
57	1			4	5	6			ON
		2	3			7	8		OFF
58		2	3	4	5	6			ON
	1					7	8		OFF
59	1	2		4	5	6			ON
			3			7	8		OFF
60			3	4	5	6			ON
	1	2				7	8		OFF
61	1		3	4	5	6			ON
		2				7	8		OFF
62		2	3	4	5	6			ON
	1					7	8		OFF
63	1	2	3	4	5	6			ON
						7	8		OFF

ADDR	Switch Settings								
64						7			ON
	1	2	3	4	5	6		8	OFF
65	1					7			ON
		2	3	4	5	6		8	OFF
66		2				7			ON
	1		3	4	5	6		8	OFF
67	1	2				7			ON
			3	4	5	6		8	OFF
68			3			7			ON
	1	2		4	5	6		8	OFF
69	1		3			7			ON
		2		4	5	6		8	OFF
70		2	3			7			ON
	1			4	5	6		8	OFF
71	1	2	3			7			ON
				4	5	6		8	OFF
72				4		7			ON
	1	2	3		5	6		8	OFF
73	1			4		7			ON
		2	3		5	6		8	OFF
74		2		4		7			ON
	1		3		5	6		8	OFF
75	1	2		4		7			ON
			3		5	6		8	OFF
76			3	4		7			ON
	1	2			5	6		8	OFF
77	1		3	4		7			ON
		2			5	6		8	OFF
78		2	3	4		7			ON
	1				5	6		8	OFF
79	1	2	3	4		7			ON
					5	6		8	OFF
80					5	7			ON
	1	2	3	4		6		8	OFF
81	1				5	7			ON
		2	3	4		6		8	OFF
82		2			5	7			ON
	1		3	4		6		8	OFF
83	1	2			5	7			ON
			3	4		6		8	OFF
84		3			5	7			ON
	1	2		4		6		8	OFF
85	1		3		5	7			ON
		2			6	7		8	OFF
86		2	3		5	7			ON
	1			4		6		8	OFF
87	1	2	3		5	7			ON
				4		6		8	OFF
88				4	5	7			ON
	1	2	3			6		8	OFF
89	1			4	5	7			ON
		2	3			6		8	OFF
90		2	3	4	5	7			ON
	1					6		8	OFF
91	1	2		4	5	7			ON
			3			6		8	OFF
92			3	4	5	7			ON
	1	2				6		8	OFF
93	1		3	4	5	7			ON
		2				6		8	OFF
94		2	3	4	5	7			ON
	1					6		8	OFF
95	1	2	3	4	5	7			ON
						6		8	OFF

ADDR	Switch Settings								
96					6	7			ON
	1	2	3	4	5		8		OFF
97	1				6	7			ON
		2	3	4	5		8		OFF
98		2			6	7			ON
	1		3	4	5		8		OFF
99	1	2			6	7			ON
			3	4	5		8		OFF
100			3		6	7			ON
	1	2		4	5		8		OFF
101	1		3		6	7			ON
		2		4	5		8		OFF
102		2	3		6	7			ON
	1			4	5		8		OFF
103	1	2	3		6	7			ON
				4	5		8		OFF
104				4		6	7		ON
	1	2	3		5		8		OFF
105	1			4		6	7		ON
		2	3						



### SAP アドレスチャート

ADDR	Switch Settings								
128	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
									OFF
129	1							8	ON
		2	3	4	5	6	7		OFF
130	1	2						8	ON
			3	4	5	6	7		OFF
131	1	2						8	ON
				3	4	5	6	7	OFF
132	1	2						8	ON
			3	4	5	6	7		OFF
133	1	3						8	ON
				2	4	5	6	7	OFF
134	1	2	3					8	ON
				4	5	6	7		OFF
135	1	2	3					8	ON
				4	5	6	7		OFF
136	1	2	3					8	ON
				4	5	6	7		OFF
137	1			4				8	ON
		2	3		5	6	7		OFF
138	1			4				8	ON
		2	3		5	6	7		OFF
139	1	2	4					8	ON
				3	5	6	7		OFF
140	1			4				8	ON
		2	3		5	6	7		OFF
141	1	2	3	4				8	ON
				5	6	7			OFF
142	1	2	3	4				8	ON
				5	6	7			OFF
143	1	2	3	4				8	ON
				5	6	7			OFF
144	1	2	3	4				8	ON
				5	6	7			OFF
145	1			5				8	ON
		2	3		4	6	7		OFF
146	1	2		5				8	ON
				3	4	6	7		OFF
147	1	2		5				8	ON
				3	4	6	7		OFF
148	1	2		5				8	ON
				3	4	6	7		OFF
149	1	2	3	5				8	ON
				4	6	7			OFF
150	1	2	3	5				8	ON
				4	6	7			OFF
151	1	2	3	5				8	ON
				4	6	7			OFF
152	1	2	3	4	5			8	ON
				6	7				OFF
153	1			4	5			8	ON
		2	3		6	7			OFF
154	1	2		4	5			8	ON
				3	6	7			OFF
155	1	2		4	5			8	ON
				3	6	7			OFF
156	1	2		3	4	5		8	ON
				6	7				OFF
157	1	3	4	5				8	ON
				6	7				OFF
158	1	2	3	4	5			8	ON
				6	7				OFF
159	1	2	3	4	5			8	ON
				6	7				OFF

ADDR	Switch Settings								
160	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
									OFF
161	1					6	7	8	ON
		2	3	4	5				OFF
162	1	2				6	7	8	ON
			3	4	5				OFF
163	1	2				6	7	8	ON
				3	4	5			OFF
164	1	2				6	7	8	ON
			3	4	5				OFF
165	1	3				6	7	8	ON
				2	4	5			OFF
166	1	2	3			6	7	8	ON
				4	5				OFF
167	1	2	3			6	7	8	ON
				4	5				OFF
168	1	2	3			6	7	8	ON
				4	5				OFF
169	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
170	1	2	4	5	6	7	8	ON	
				3	5				OFF
171	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
172	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
173	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
174	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
175	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
176	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
177	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				5	6	7			OFF
178	1	2			5	6	7	8	ON
				3	4				OFF
179	1	2			5	6	7	8	ON
				3	4				OFF
180	1	2			5	6	7	8	ON
				3	4				OFF
181	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
182	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
183	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
184	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
185	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
186	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
187	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
188	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
189	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
190	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF
191	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6	7		OFF

ADDR	Switch Settings								
192	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
									OFF
193	1						7	8	ON
		2	3	4	5	6			OFF
194	1	2					7	8	ON
				3	4	5	6		OFF
195	1	2					7	8	ON
				3	4	5	6		OFF
196	1	2					7	8	ON
				3	4	5	6		OFF
197	1	3					7	8	ON
				2	4	5	6		OFF
198	1	2	3				7	8	ON
				4	5	6			OFF
199	1	2	3				7	8	ON
				4	5	6			OFF
200	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
201	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
202	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
203	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
204	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
205	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
206	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
207	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
208	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
209	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
210	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
211	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
212	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
213	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
214	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
215	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
216	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
217	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
218	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
219	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
220	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
221	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
222	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF
223	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
				4	5	6			OFF

ADDR	Switch Settings								
224	1	2	3	4	5	6	7	8	ON
									OFF
225	1					6	7	8	ON
		2	3	4	5				OFF
226	1	2				6	7	8	ON
				3	4	5			OFF
227	1	2				6	7	8	ON
				3	4	5			OFF
228	1	2				6	7	8	ON
				3	4	5			OFF
229	1	3				6	7	8	ON
				2	4	5			OFF
230	1	2	3			6	7		

## 付録D マウンティングキット

以下の表で、XTRx をマウントするためのキットを紹介します。

マウントキット #	概要
2211053-01	<p>頑丈なマウントブラケット。</p> <p>ひとつのユニットを壁や机に固定します。4 個のタッピンねじが付属します。</p> 
8310207-02	<p>標準 19 インチの 1U ラックマウントプレート。</p> <p>1U のスペースで 4 台のユニットをマウントします。機器の取り付けネジ (8 個) とラックマウント用のネジ (4 個) が付属します。</p> 
8310208-02	<p>標準 19 インチの 2U ラックマウントプレート。</p> <p>2U のスペースで 8 台のユニットをマウントします。装置の取り付けネジ (16) とラックマウント用のネジ (4) が付属します。</p> 

※動作温度の高い場所 (最大規定動作温度付近) の場所で使用する場合は、XRTx デバイスを設置する際に、適切な空気の流れの維持を考慮することが重要です。ラックアセンブリ内では、同じラック内のケーブルの束やその他の機器で適切な冷却が妨げられることがあります。XRTx グループ間に 1U のギャップ (ブランクふいらープレートを使用) を残しておく必要があります。表面実装のアプリケーションでは、デバイスに適切な空気循環を確保するため空気孔を塞がないようにしてください。



**2211053-01 マウントブラケット装着時 (XRTx)**



**8310207-02 1U ラックマウントプレート装着時 (XRTx)**



**8310208-02 2U ラックマウントプレート装着時 (XRTx)**





- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標または商標です。
- 仕様および外観は予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

---

**HIBINO**

ヒビノインターサウンド株式会社

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12 TEL: 03-5783-3880 FAX: 03-5783-3881  
E-mail: info@hibino-intersound.co.jp <http://www.hibino-intersound.co.jp/>